

平成25年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年4月12日

上場取引所 大

上場会社名 ファーマライズホールディングス株式会社
 コード番号 2796 URL <http://www.pharmarise.com/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役執行役員
 四半期報告書提出予定日 平成25年4月12日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 大野 利美知
 (氏名) 秋山 昌之

TEL 03-3362-7130

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年5月期第3四半期の連結業績(平成24年6月1日～平成25年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年5月期第3四半期	23,469	7.0	951	△24.4	761	△32.7	689	21.4
24年5月期第3四半期	21,928	11.5	1,259	29.8	1,130	35.4	568	52.1

(注) 包括利益 25年5月期第3四半期 697百万円 (22.6%) 24年5月期第3四半期 569百万円 (49.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年5月期第3四半期	9,194.71	—
24年5月期第3四半期	7,574.84	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年5月期第3四半期	22,695	4,185	17.7
24年5月期	17,596	3,563	19.4

(参考) 自己資本 25年5月期第3四半期 4,025百万円 24年5月期 3,408百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年5月期	—	0.00	—	1,000.00	1,000.00
25年5月期	—	0.00	—	—	—
25年5月期(予想)	—	—	—	1,400.00	1,400.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年5月期の連結業績予想(平成24年6月1日～平成25年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	33,200	12.1	1,540	△7.1	1,320	△10.2	860	25.4	11,466.21

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 1社 (社名) 株式会社寿製作所、除外 1社 (社名)

* 詳細は、添付資料4ページ「当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

* 詳細は、添付資料4ページ「四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 有
④ 修正再表示 : 無

* 第1四半期より減価償却方法の変更を行っており、「会計方針の変更を会計上の見積りの変更とすることが困難な場合」に該当しております。詳細は、添付資料4ページ「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年5月期3Q	78,495 株	24年5月期	78,495 株
----------	----------	--------	----------

- ② 期末自己株式数

25年5月期3Q	3,492 株	24年5月期	3,492 株
----------	---------	--------	---------

- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年5月期3Q	75,003 株	24年5月期3Q	75,003 株
----------	----------	----------	----------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は完了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(株式分割について)

当社は平成23年12月1日を効力発生日として1株につき3株の割合で株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期純利益金額を算定しております。

○目 次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	P. 2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	P. 3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	P. 3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	P. 4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	P. 4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	P. 4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	P. 4
3. 四半期連結財務諸表	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	P. 7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	P. 8
(3) 継続企業の前提に関する注記	P. 9
(4) セグメント情報等	P. 9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	P. 10
(6) 重要な後発事象	P. 10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成24年6月1日～平成25年2月28日）における国内外の経済状況は、積極的な経済政策の転換が好感され、円高の是正と大幅な株価上昇が進みました。

このような情勢のもと、当社グループの当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高は23,469百万円（前年同期比7.0%増）、営業利益は951百万円（同24.4%減）、経常利益は761百万円（同32.7%減）、四半期純利益は689百万円（同21.4%増）となりました。

前第2四半期連結会計期間に子会社化した株式会社テラ・ヘルスプロモーションや今期8店舗の新規出店効果に加えて、平成24年10月に取得した調剤薬局店舗の運営会社2社（新世薬品株式会社、日本メディケア株式会社）と、紙カルテやレントゲンフィルム等の医学資料の保管・管理業務を担う株式会社寿製作所が当第3四半期連結会計期間から連結売上高に寄与し、前年対比で増収を確保することができました。

一方で、営業利益、経常利益は前年対比で減益となりました。これは、既存店売上高が低調に推移している事に加えて固定費が増加した事が要因であります。既存店売上高の不調は、平成24年4月の薬価改定や後発医薬品の取り扱い増加に伴う処方せん単価の伸び悩みや、かかりつけ医の普及や面薬局の増加に伴う処方せん枚数の減少に起因するものと考えています。固定費増加は主に人件費の増加であり、200店舗を超えるグループガバナンスと管理体制を強化するためのコストであります。

また、当社は平成25年4月に北海道で調剤薬局事業を運営する有限会社たかはし（本社：北海道釧路市、代表者：高橋貢）の株式取得を決議いたしました。同社の連結業績への寄与は次期以降となりますが、平成24年7月13日公表の中期経営計画における目標数値（平成27年5月期：連結売上高400億円以上、経常利益22億円以上）の実現可能性を高めるものであります。

セグメントごとの業績は次の通りであります。

（調剤薬局事業）

当第3四半期連結会計期間末において、当社グループが運営する調剤薬局店舗数は、期初から29店舗増加（増加30店舗、減少1店舗）し202店舗（直営200店舗、FC2店舗）となりました。増加30店舗の内訳は連結子会社化した新世薬品株式会社の16店舗、連結子会社の榊みなみ薬局がM&Aにより取得した6店舗（東京都4店舗、神奈川県2店舗）、新規開局の8店舗（榴ヶ岡店（宮城県）、長浜七条店（滋賀県）、白根大通店（新潟県）、平和町店（石川県）、各務原店（岐阜県）、新発田西店（新潟県）、阿倍野薬局（大阪市）、深川店（北海道））ではほぼ当初計画通りに進捗しています。薬局運営面につきましては、中期経営計画で掲げるソフト（高付加価値）戦略に基づき、①地域医療（在宅医療・施設調剤）②後発医薬品③予防医療、に関する取り組みを推進してまいりました。特に後発医薬品につきましては、従来の方針である「安全と効果の検証」を踏まえた上で、さらに積極的な対応を加速しております。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における調剤薬局事業の業績は、売上高は22,563百万円（前年同期比6.5%増）、セグメント利益は1,021百万円（同26.9%減）となりました。

（その他）

その他の事業の主な内容は、ファーマライズ株式会社がJR札幌駅内「JRタワーオフィスプラザさっぽろ」の7階から9階に展開する「ファーマライズ医療モール」の運営であります。その他は、当社による処方データの販売、子会社の株式会社ふじい薬局による化粧品等の小売販売及び衛生材料等の卸売販売、ファーマライズ株式会社の子会社である株式会社レイケアセンターによる人材派遣事業であります。さらに、当第3四半期連結会計期間より連結子会社化した株式会社寿製作所が手掛ける医学資料の保管・管理業務が追加されております。

その他の事業における当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は905百万円（前年同期比22.4%増）、セグメント利益は82百万円（同72百万円増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産の残高は22,695百万円となり、前連結会計年度末残高17,596百万円に対し、5,099百万円増加しました。この主な要因は、新規出店やM&Aを積極的に行ったことに伴い有形固定資産の残高が5,487百万円となり前連結会計年度末残高4,032百万円に対し1,455百万円増加し、のれんの残高が6,346百万円となり前連結会計年度末残高2,694百万円に対し3,651百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債の残高は18,510百万円となり、前連結会計年度末残高14,033百万円に対し4,476百万円増加しました。この主な要因は、1年内償還予定の社債、社債の合計残高が1,238百万円となり、前連結会計年度末残高1,487百万円に対し249百万円減少した一方で、1年内返済予定の長期借入金、長期借入金の合計残高が9,235百万円となり、前連結会計年度末残高5,844百万円に対し3,391百万円増加し、短期借入金が720百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は4,185百万円となり、前連結会計年度末残高3,563百万円に対し622百万円増加しました。この主な要因は、利益剰余金の残高が2,521百万円となり、前連結会計年度末残高1,906百万円に対し614百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当期の連結業績につきましては、平成25年4月12日付公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」の通りであります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

平成24年10月31日付けで、株式会社寿製作所の全株式を取得し連結子会社となっております。なお、株式会社寿製作所は特定子会社に該当いたします。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。なお、法人税等調整額は法人税等に含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年6月1日以降に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ2,256千円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,557,105	4,382,830
売掛金	1,042,893	1,655,208
商品	815,034	1,244,018
未収入金	1,967,092	1,057,367
その他	344,347	555,384
貸倒引当金	△2,183	△3,746
流動資産合計	8,724,289	8,891,063
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,728,282	2,771,024
土地	1,900,534	2,224,988
その他（純額）	403,237	491,086
有形固定資産合計	4,032,054	5,487,100
無形固定資産		
のれん	2,694,863	6,346,261
ソフトウェア	126,211	93,721
その他	30,298	44,801
無形固定資産合計	2,851,373	6,484,784
投資その他の資産		
差入保証金	833,544	885,604
その他	1,241,980	1,042,711
貸倒引当金	△115,457	△116,457
投資その他の資産合計	1,960,067	1,811,858
固定資産合計	8,843,494	13,783,743
繰延資産		
株式交付費	5,716	3,258
社債発行費	22,893	17,439
繰延資産合計	28,610	20,697
資産合計	17,596,394	22,695,504

（単位：千円）

	前連結会計年度 (平成24年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,913,710	5,632,712
短期借入金	—	720,606
1年内償還予定の社債	398,000	398,000
1年内返済予定の長期借入金	2,104,797	2,959,913
未払法人税等	401,411	81,111
賞与引当金	16,733	122,155
その他	737,094	725,519
流動負債合計	8,571,747	10,640,018
固定負債		
社債	1,089,500	840,500
長期借入金	3,739,554	6,275,971
退職給付引当金	174,368	272,403
その他	458,147	481,305
固定負債合計	5,461,569	7,870,180
負債合計	14,033,316	18,510,198
純資産の部		
株主資本		
資本金	815,545	815,545
資本剰余金	762,846	762,846
利益剰余金	1,906,542	2,521,170
自己株式	△88,308	△88,308
株主資本合計	3,396,625	4,011,253
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,450	14,690
その他の包括利益累計額合計	11,450	14,690
少数株主持分	155,001	159,361
純資産合計	3,563,077	4,185,305
負債純資産合計	17,596,394	22,695,504

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年6月1日 至平成24年2月29日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年6月1日 至平成25年2月28日)
売上高	21,928,364	23,469,151
売上原価	18,619,630	20,092,357
売上総利益	3,308,733	3,376,793
販売費及び一般管理費	2,049,247	2,424,852
営業利益	1,259,486	951,940
営業外収益		
受取利息	3,304	3,582
受取配当金	818	908
持分法による投資利益	15,906	—
物品売却益	—	12,096
受取賃貸料	15,902	15,784
その他	15,751	15,107
営業外収益合計	51,683	47,479
営業外費用		
支払利息	102,136	122,564
持分法による投資損失	—	55,220
支払手数料	22,288	11,945
休止固定資産費用	31,843	19,566
その他	24,468	28,922
営業外費用合計	180,737	238,219
経常利益	1,130,432	761,201
特別利益		
固定資産売却益	—	142
段階取得に係る差益	—	413,298
収用補償金	—	17,755
特別利益合計	—	431,197
特別損失		
固定資産売却損	22,146	—
固定資産除却損	3,478	5,220
投資有価証券売却損	—	52,951
賃貸借契約解約損	—	17,435
特別損失合計	25,624	75,606
税金等調整前四半期純利益	1,104,807	1,116,792
法人税等	531,524	422,450
少数株主損益調整前四半期純利益	573,283	694,341
少数株主利益	5,147	4,710
四半期純利益	568,135	689,630

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年6月1日 至平成24年2月29日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年6月1日 至平成25年2月28日)
少数株主損益調整前四半期純利益	573,283	694,341
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,237	3,384
持分法適用会社に対する持分相当額	△1,994	△145
その他の包括利益合計	△4,232	3,239
四半期包括利益	569,050	697,580
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	563,903	692,870
少数株主に係る四半期包括利益	5,147	4,710

(3) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結累計期間（自 平成24年6月1日 至 平成25年2月28日）

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自 平成23年6月1日 至 平成24年2月29日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 3
	調剤薬局事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	21,188,536	21,188,536	739,827	21,928,364	—	21,928,364
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	21,188,536	21,188,536	739,827	21,928,364	—	21,928,364
セグメント利益	1,397,244	1,397,244	9,293	1,406,537	△147,051	1,259,486

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない処方データ販売事業、化粧品等販売事業、医療モール経営事業及び人材派遣事業が含まれております。

2 セグメント利益の調整額△147,051千円は、報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自 平成24年6月1日 至 平成25年2月28日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 3
	調剤薬局事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	22,563,473	22,563,473	905,677	23,469,151	—	23,469,151
セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	22,563,473	22,563,473	905,677	23,469,151	—	23,469,151
セグメント利益	1,021,482	1,021,482	82,199	1,103,681	△151,740	951,940

(注) 1 その他には、報告セグメントに含まれない処方データ販売事業、化粧品等販売事業、医療モール経営事業、人材派遣事業及び医学資料保管・管理事業等が含まれております。

2 セグメント利益の調整額△151,740千円は、報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間（自 平成24年6月1日 至 平成25年2月28日）

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

当第3四半期連結累計期間（自 平成24年6月1日 至 平成25年2月28日）

株式取得による会社等の買収

当社は、平成25年4月1日開催の取締役会において、有限会社たかはし（以下「たかはし」という）の全株式を取得し、完全子会社化することを決議いたしました。

1. 株式取得の目的

当社グループは調剤薬局事業を主たる事業としており、高水準の調剤サービスを安定して提供できる能力と、日本全国に展開する店舗で効率的なドミナント圏を形成していることを裏付けに、中期経営計画に基づき新たな成長ステージに向けたソフト（高付加価値）戦略とハード（地域密着）戦略を並行して推進しております。

ソフト戦略とは、これまでも積極的に取り組んできた地域医療（在宅医療、施設調剤等）や後発医薬品の推奨品目選定に関するノウハウ、予防医療の提案能力など当社グループ独自の強みにさらに磨きをかけることであります。ハード戦略とは、当社グループが店舗展開している地域社会への貢献を重要な命題と認識し、「地域医療への貢献」という理念を共有できる企業との提携関係や資本関係の構築を拡大することです。また、当社グループは平成21年6月1日より持株会社が地域の薬局運営会社を統括する体制に移行し、グループネットワークの拡大とグループ全般の運営効率向上に努めております。

この度、たかはしは当社グループの掲げる企業理念（地域医療への貢献、患者への良質な医療サービス、医療情報の共有化）及び戦略に共鳴し、当社グループに参画することとなり、当社は、たかはしの発行済株式の全部を取得し、子会社といたします。たかはしは、北海道釧路市内で調剤薬局を運営し、釧路地区において信認の厚い有力企業であります。

当社グループにおいて北海道地区は、グループ基盤を形成する重点地区との認識のもと、調剤薬局事業及び医療モール事業を展開しております。調剤薬局事業は、子会社の株式会社ふじい薬局と北海道ファーマライズ株式会社の2社で店舗を展開しております。また医療モール事業は、子会社のファーマライズ株式会社によって札幌駅直結のJR タワーオフィスプラザさっぽろ（札幌市中央区北5条西2丁目）の3フロアに「ファーマライズ医療モール」を展開し、北海道地区の「地域医療への貢献」を推進するための新しいアプローチと位置付けております。

たかはしを当社グループに取り込むことにより、道東地区で3店舗の事業効率の高い薬局を取得することができ、さらにたかはしがこれまで培ってきた地域の人的ネットワーク等の地域医療に関するノウハウを重視し、加えて当社グループの地域医療や後発医薬品に関するノウハウを融合することで、当社グループ内におけるシナジー効果の発現を見込むことができます。

たかはしの代表取締役社長 高橋貢氏を、将来的な北海道地区における当社グループ経営の中核を担う人材として、当社の執行役員として迎え、当社グループの企業価値向上に反映させて参りたいと考えております。

2. 株式取得の相手先の名称 高橋 貢、高橋 広美

3. 取得する会社の概要

単位：千円

(1)	商号	有限会社たかはし		
(2)	本店所在地	北海道釧路市南大通一丁目3番6号		
(3)	代表者の役職・氏名	代表取締役社長 高橋 貢		
(4)	事業内容	調剤薬局事業、一般薬品事業		
(5)	資本金の額	3,000,000 円		
(6)	設立年月日	平成9年6月4日		
(7)	事業年度末日	7月31日		
(8)	大株主及び持株比率	高橋 貢 40株 (66.7%)、高橋 広美 20株 (33.3%)		
(9)	当該会社の最近3年間の経営成績及び財政状態			
		平成22年7月期	平成23年7月期	平成24年7月期
	純資産	119,060	131,419	132,494
	総資産	441,160	444,474	459,303
	売上高	994,285	1,047,261	1,078,685
	営業利益又は営業損失(△)	△1,405	15,679	△2,808
	経常利益	6,872	26,342	2,746
	当期純利益	533	12,359	1,074

4. 株式取得の時期 平成25年4月30日

5. 取得株式数、取得価額及び取得前後の所有株式の状況

- (1) 異動前の所有株式数 0株 (所有割合：0%)
- (2) 取得株式数 60株 (取得価額：820百万円)
- (3) 異動後の所有株式数 60株 (所有割合：100%)

6. 支払資金の調達方法

株式取得資金につきましては、保有現預金による予定であります。